

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
244133098	専門実践実習(疾病予防) Professional Practice Exercises (Disease prevention)	浅田英嗣、内田友乃、増田尚	✓	専門	1	選択	3通期

科目の概要

専門実践の実習は、疾病治療、重症化予防（病院、福祉施設）、疾病予防（スポーツ栄養、薬局、事業所）、食育・食環境（学校、保健所等、食品開発）のうちから1単位を修得する。疾病予防では生活習慣病の予防をはじめ、幼少期における栄養補給などによる疾病予防の知識を踏まえた実践活動の他、親子料理教室や高齢者対象の栄養教室での食事指導や、スポーツを取り入れた健康教室などを開催。栄養学や健康運動学などの知識を活かす。

学修内容	到達目標
① スポーツジムや運動競技チームのメンバーに対して健康運動実践指導者として食を通して選手をサポートする手法を学ぶ。 ② 子と親を対象とした食育活動について理解し、実践できる。 ③ 栄養面と嗜好性を両立する献立と給食のマネジメントを学ぶ。	① 運動能力の向上に必要な知識と技術を習得し、健康運動指導者資格試験の受験資格が取得できる。 ② 岡崎市の親子料理教室への企画案、実戦案、評価ができる。 ③ 栄養面と嗜好性を両立させ、生活習慣病予防に貢献する献立作成と給食マネジメントができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	個人能力を主体的に発揮し、グループ活動では積極的に働きかけ行動に移せる。
	働きかけ力	グループメンバーに影響力を与える行動へと進めることができる。
	実行力	与えられた課題の内容を理解し、取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	課題を提示します、例題より課題を発見し創造力を発揮し、段取りより計画し効率よく課題解決できる。
	計画力	グループ活動の中で、最善のものは何かを提案することができる。
	創造力	課題を提示します、例題より課題を発見し創造力を発揮し、段取りより計画し効率よく課題解決できる。
チームで働く力	発信力	自己の意見を整理して発言することで授業展開等の状況を把握できる。
	傾聴力	授業内容、課題、メンバーの意見等は傾聴することで理解し内容を整理できる。
	柔軟性	グループメンバーの意見・考え・提案に相違点があっても反対するのではなく需要し、自分と相手の意見・考え・提案を整理して、目的・目標に向かって前進させることができる。
	状況把握力	物事がどのように進行しているか把握できる。
	規律性	決められたこと、決めたことは守る意識できる。例えば、提出物の期限を守る。
	ストレスコントロール力	ストレスを感じる出来事を自分の成長の機会だとポジティブに捉えることができる。

テキスト及び参考文献

テキスト：エキスパート管理栄養士養成シリーズ「運動生理学」第3版 山本順一郎編（化学同人）
 「サプリメントマイスター検定公式テキスト」財団法人職業技能振興会監修
 参考文献：「給食施設のための献立作成マニュアル第9版」赤羽正之 医歯薬出版（株）
 「日本人の食事摂取基準2020年版」第一出版（株）

他科目との関連、資格との関連

関連科目：管理栄養学科のすべての科目

資格との関連：栄養士、管理栄養士、食品衛生管理者・監視員、栄養教諭

学修上の助言	受講生とのルール
管理栄養士としての知識を生かした指導、助言ができる健康運動実践指導者やNRサプリメント・アドバイザーとしての将来の職業の展望を描いて学習すること。 給食のマネジメントは栄養の知識だけでなく、優良企業では管理栄養士の経営的センスも問われる。	資格取得試験に関連する費用は学生各自の負担とする。試作の食材などの費用も学生の負担とする。 資格取得のために、本学での単位取得以外の条件がある場合は、学生が個々に手続きをすること。 授業は、遅刻が3回で1回の欠席とする。6回の欠席で単位取得の資格を失う。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	45	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> 運動機能に関連する栄養管理（15点） 健康に貢献する食品とサプリメント（15点） 疾病を予防と健康増進のための食事管理（15点） 		
			②	✓			
			③	✓			
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
		レポート	30	①	✓		<ul style="list-style-type: none"> 運動施設での食事指導の実践を通して獲得した知識と経験をまとめることができる。（10点） 健康に貢献する食事とサプリメントの在り方をまとめることができる。（10点） 健康を維持し、疾病を予防することに加えて、起業が可能な食事提供の考え方をまとめることができる。（10点）
				②	✓		
				③	✓		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	15	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> 運動種目ごとに最も効率的な体づくりと最も効果的運動能力を発揮するための食事とその指導法（5点） ステージごと、環境ごとに必要な食生活と、それを補完するサプリメントの活用法（5点） 職場環境ごとに必要とされる栄養をカバーできる給食とニーズに沿った食事の両立（5点） 			
		②	✓				
		③	✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	<small> (主体性) 自分の卒業後のビジョンをしっかりとシートに明記できる。 (働きかけ力) グループメンバーに影響力を与える行動へと進めることができている。 (実行力) 授業中は、常に集中しているため、授業内でシートの記入ができる。 (課題発見力) 科目の到達目標・意義をしっかりと理解しているため、ビジョン達成のためのやるべき事が明確である。 (計画力) 課題を解決するために計画したことが、ワークシートに記述できている。 (創造力) 課題を解決する行動がとれているため、有意義なグループ討議ができる。 (発信力) みんなが共感できたり・納得できる発信をしているため、円滑なグループ討議ができる。 (傾聴力) 話している人の顔とか目を見て聴き、話しやすい雰囲気を作り、グループ討議ができる。 (柔軟性) 自分と相手の意見・考え・提案を整理して、目的・目標に向かって前進させる意見をいうことができている。 (状況把握力) 物事がどのように進行しているか把握できる。 (規律性) 期限内に課題が提出できる。 (ストレスコントロール力) ストレスを感じる出来事を自分の成長の機会だとポジティブに捉えた行動ができている。 </small>		
			②	✓			
			③	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
学修内容を十分に理解し、要点や課題を的確にまとめることができ、発表内容や課題は独自性があり、その評価が90%以上のときはS(秀)。 発表内容やレポート内容にオリジナルの考察が加えられていて、課題の評価が80%以上であればA(優)。	発表内容やレポートの内容がホームページで調べたものが主で、課題の評価が70%以上のときはB(良)。 発表内容や課題がほぼホームページのみから作成したもので、課題の評価が60%以上のときはC(可)とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション ・授業の進め方について ・運動、栄養、サプリメントに対する基本的な考え方を学ぶ。(浅田)	講義	食事、運動、サプリメントについて概要を説明できる。	(予習) 運動と栄養の関係をまとめる。 (復習) 運動、栄養、サプリメントの役割をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	運動と栄養の関連を実際の運動競技チームへの指導、実践を通して確認し、栄養教育プログラムの構築方の構築に向けて学ぶべき事柄を話し合う。(浅田)	演習、実習、グループワーク	体力、体格、運動機能を改善、強化、維持のために必要な基本的な考え方を指導できる。	(予習) 運動と栄養の関連性をまとめる。 (復習) 運動、栄養、サプリメントの効果的な組み合わせと指導法をまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	集団に対する栄養改善のためのプログラムを構築し、自然食品に加工品、サプリメントを加えた総合的な食生活相談の実践を通して、多様化する食生活に対応する管理栄養士の在り方を学ぶ。(浅田)	演習、実習、グループワーク	生活習慣病と食生活の関連と現代社会における注意点を説明できる。	(予習) 食生活と生活習慣病についてまとめる。 (復習) 理想的な食生活と、サプリメントの活用方法をまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4-13	イベントへの出展を企画運営し、生活習慣病予防、運動機能を改善する栄養摂取法に関する情報収集と改善のための栄養相談を通して管理栄養士と一般市民との栄養に対する認識の違いや指導するために必要な知識や技術を体感する。 主に、岡崎げんき館での親子料理教室を企画提案し、実施する。(内田5回、増田5回)	演習、実習、グループワーク	一般市民にアピールするイベントのポイントと指導の要点を説明できる。	(予習) 生活習慣病と食生活を説明するための媒体を考案する。 (復習) 市民の健康に対する認識と健康に必要な知識のギャップとその対処法をまとめる。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14-15	実践した運動のプログラム、生活習慣病を予防する食生活の指導法、対象者からの評価、改善策等をまとめてスライドを作製して発表する。	学修のまとめ、統計、発表	実践した内容をまとめ、統計・分析を交えて結果と効果を説明することができる。	(予習) 1年間で学んだ経験と知識をまとめる。 (復習) 知識と経験を数字を使って具現化し、記録する。	240	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力